

# 広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]  
(平成24年11月解析分)

## 1 疾患別定点情報

### (1) 定点把握(週報)五類感染症

平成24年10月分(平成24年10月1日～平成24年11月4日:5週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	5	0.01	2.26		10	百日咳	31	0.09	0.09	↑
2	RSウイルス感染症	482	1.34	0.48	→	11	ヘルパンギーナ	33	0.09	0.16	↓
3	咽頭結膜熱	47	0.13	0.30	→	12	流行性耳下腺炎	92	0.26	0.68	↗
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	259	0.72	0.72	↗	13	急性出血性結膜炎	2	0.02	0.01	
5	感染性胃腸炎	1,170	3.25	3.47	↗	14	流行性角結膜炎	35	0.37	0.97	→
6	水痘	264	0.73	0.72	↗	15	細菌性髄膜炎	5	0.05	0.01	
7	手足口病	10	0.03	0.55	↓	16	無菌性髄膜炎	3	0.03	0.05	
8	伝染性紅斑	10	0.03	0.11	↓	17	マイコプラズマ肺炎	30	0.29	0.24	→
9	突発性発しん	193	0.54	0.55	↗	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	

### (2) 定点把握(月報)五類感染症

平成24年10月分(10月1日～10月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	53	2.30	2.73	→	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	108	5.14	6.19	↗
20	性器ヘルペスウイルス感染症	18	0.78	0.77	↗	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	12	0.57	1.38	↗
21	尖圭コンジローマ	18	0.78	0.63	↗	25	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0.00	—	
22	淋菌感染症	18	0.78	1.38	↗	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	2	0.10	0.18	

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※ 薬剤耐性アシネトバクター感染症は、平成23年2月1日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

### 急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

- 急増疾患 百日咳(14件→31件)
- 急減疾患 手足口病(32件→10件)
- 伝染性紅斑(20件→10件)
- ヘルパンギーナ(92件→33件)

### 発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患、月報対象8疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	19～22	15～18, 23～26	
定点数	43	72	19	23	21	178

## 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	53	結核(53)〔西部保健所(8), 西部東保健所(2), 東部保健所(6), 北部保健所(4), 広島市保健所(21), 呉市保健所(6), 福山市保健所(6)〕
三類	9	腸管出血性大腸菌感染症(9) O157(7)〔西部東保健所(1), 広島市保健所(1), 呉市保健所(5)〕, O165(1)〔福山市保健所〕, 不明(1)〔北部保健所〕
四類	11	A型肝炎(1)〔広島市保健所〕, 日本紅斑熱(7)〔東部保健所(4), 呉市保健所(1), 福山市保健所(2)〕, レジオネラ症(3)〔東部保健所(2), 広島市保健所(1)〕
五類全数	9	アメーバ赤痢(3)〔広島市保健所(2), 福山市保健所(1)〕, 梅毒(5)〔広島市保健所〕, 風しん(1)〔広島市保健所〕

## 3 一般情報

### (1) 感染性胃腸炎について

感染性胃腸炎は、冬季に流行のピークがみられる感染症で、広島県感染症発生動向調査による定点医療機関(小児科定点の72医療機関)からの患者報告数が、9月の860人から10月は1,170人と増加しました。

そして、平成24年第47週(11月19日～11月25日)には定点当たり9.97(患者数718人)まで増加し、特に西部東保健所管内では定点当たり16.17と警報開始基準(定点当たり20)に近づいてきました。

また、全国的には、平成24年第46週(11月12日～11月18日)に定点当たり11.39と、同時期としては平成18年に次いで、過去10年間で第2位の水準となっており、例年と比較して早い立ち上がりを示しています。

感染性胃腸炎を引き起こす病原体は、細菌、ウイルス等たくさんの種類がありますが、冬季に流行する病原体は、ノロウイルスやロタウイルスなどウイルス性のものが多くみられます。

なかでもノロウイルスは、非常に感染力が強く、施設内等では感染が拡大し、多くの方が罹患する傾向があり、これからの季節、注意が必要です。

※ 高齢者施設、保育園や幼稚園などの施設では、ノロウイルス等を原因とする感染性胃腸炎の集団感染に対する予防対策をお願いします。

症 状	発熱、下痢(水様便、血便)、腹痛、悪心、嘔吐などの症状が出ますが、病原体によって異なります。下痢症状が遅れてでる場合や発熱を伴わない場合もあります。
予防対策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品は十分に加熱調理しましょう。</li> <li>外から帰ったとき、トイレの後、調理の前、食事の前には必ず石けんで手を洗いましょう。</li> <li>患者の便や吐物には多量のウイルスが含まれています。これらのものを処理する場合は、直接素手では触れず、手袋を使って処理し、汚染箇所は次亜塩素酸ナトリウムで消毒してください。</li> <li>嘔吐したり、下痢症状がある時は、タオルの共用は控えましょう。</li> </ul>

○ 広島県ホームページ「感染性胃腸炎の流行状況」

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/57/1292573795854.html>

### (2) 「レッドリボンキャンペーンin広島」の開催について

エイズのまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見をなくすことを目的に、12月1日の「世界エイズデー」にあわせてエイズに関する正しい知識の普及啓発を行うため、次のとおり「レッドリボンキャンペーンin広島」を開催します。



日 時 平成24年12月8日(土) 13時～18時

場 所 広島市西新天地公共広場(通称:アリスガーデン 中区新天地)及びその周辺

内 容 ○ エイズ啓発に関するパネル展示やパンフレット等啓発物品の配布

○ エイズ検査(無料・匿名・迅速検査)の実施〔14時～17時30分〕

○ 「フリータイム」のトークショー、ペインティングアーティストのステージ など

なお、この会場以外にも県内では、世界エイズデーにあわせたイベントや無料・匿名検査が行われます。詳しくはこちらのホームページをご覧ください。

○ 広島県ホームページ「世界エイズデー☆レッドリボンキャンペーンinひろしま☆」

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/57/redribbon.html>

**“AIDS”GOES ON……～エイズは続いている～**

### ● エイズとは

エイズは、HIV(ヒト免疫不全ウイルス)に感染しておこる病気で、身体を病気から守る免疫系が破壊されて、抵抗力が低下し、様々な病気に罹ってしまいます。

HIVに感染してもすぐに発病するわけではなく、平均で約10年程度の潜伏期間を経て発病(発病した状態をエイズといいます。)します。HIV感染を早期に発見し、治療することで発病を予防することができます。

HIVは、日常的な接触では感染しません。身近な方がHIVに感染していたとしても接し方を変える必要はありません。